

○井倉雅子* 前田真子* 西村一朗**

(*奈良女大・院、**奈良女大)

【目的】他の中山間地域と同様、明日香村稲渕地区でも過疎化や高齢化が原因で耕作放棄地が増えており、平成8年4月から都市住民の援助によって棚田を保存する「棚田オーナー制度」が導入されることとなった。導入1年目の時点では、都市住民・地区住民の事業への関わりを明らかにするためにアンケート調査を行い、都市住民・地区住民の双方の立場から見た「棚田オーナー制度」の効果と今後の課題について検討した。

【方法】「棚田オーナー制度」に参加する20歳以上のオーナー86人、20歳以上の稲渕地区住民146人に対してアンケート調査を行い、その結果について分析を行った。

【結果】オーナーの農作業に対する意欲と実際の行動を結び付けていく方策を検討する必要がある。農作業に対する意欲を活かしていく方向を考えるためにも、将来的には農地を購入できる制度を設ける、定住を考える人に対する受け入れ皿や相談窓口を設けるなどの対応が求められる。イベントの回数は少なくとも、内容を充実したものとし、農作業以外の方法でもオーナーとの交流を深め、住民の負担を軽くする必要がある。施設整備についてのオーナー側の意見と地区住民側の意見に違いがみられた。今後も「棚田オーナー制度」を続けていくにあたって、都市と農村の交流をコンセプトとし、利用する側と受け入れる側の両者の意見をよく考慮した改善策を講じる必要がある。1年目の時点では事業は役場の主導で進められている。そのため、受け入れ側の負担が重すぎることはないよう、地区住民の意見を十分に反映し、事業を進められるような方向づけを行う必要がある。